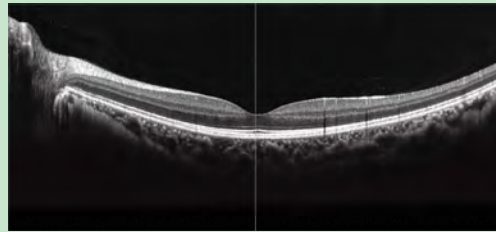


…… 疾患別の網膜を見てみましょう ……

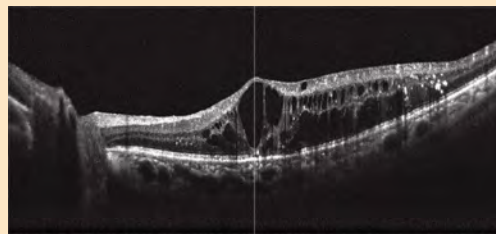
正常眼



網膜は 10 層あり、視力がでるために大切な中央の黄斑部がくぼんでいます。
カラーマップ画像は正常か異常かを色で分かりやすく表示しています。

※ カラーマップ画像の詳細は下記をご覧ください。

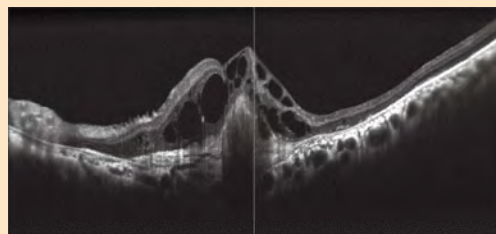
糖尿病網膜症



黄斑部にむくみ

糖尿病により網膜内に血管から漏れた血漿成分が溜まり、黄斑部がむくんでいる状態です。
むくみが強いと視力低下や、物がゆがんで見えることがあります。

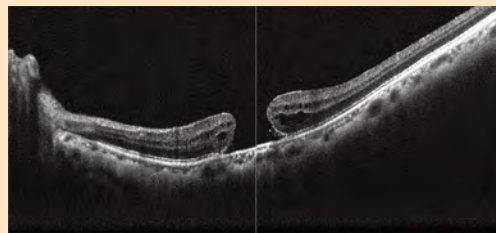
加齢黄斑変性



黄斑下から新生血管

網膜の下から弱い血管（新生血管）が伸びてくるタイプでは出血を伴うことも多く、急激な視力低下を招きます。

黄斑円孔

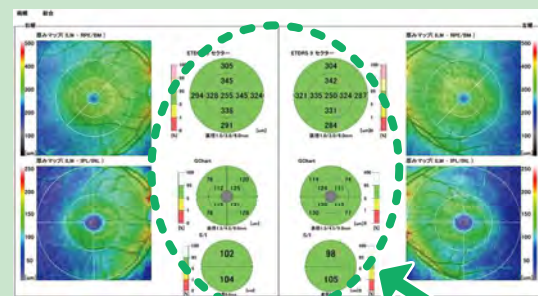


黄斑部に穴

視力にもっとも影響する黄斑部に穴が開いている状態です。網膜の前にあるゼリー状の硝子体が網膜を引きよせた際に起こることがあります。

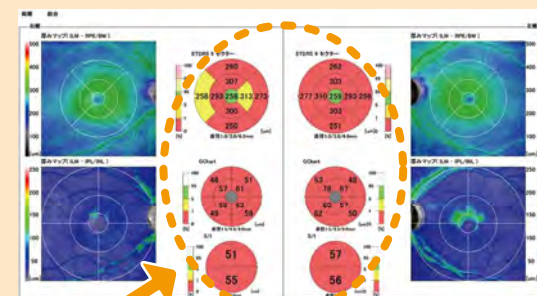
…… 網膜厚のカラーマップ ……

正常眼



正常範囲内は緑色で表示されます。

異常眼



黄斑部に異常がある場合や、緑内障により神経線維層が薄いところが、黄色や赤色で表示されます。

●● 目の構造 ●●



OCT は近年大きく進歩している画像診断機器です。近赤外光を使用して目の中にある網膜や視神経の断層像を撮影することができます。文字通り光を使用しているため人体には全く影響がありません。さらに、眼球に直接触れることもないため、検査を受けられる方にとっても痛みがなく安全です。また、画像として残すことができるため、早期発見だけでなく、治療効果や再発・再燃の有無も確認できます。

光干渉断層計

OCT ってなに？

どんな疾患に使用するの？

網膜内に構造的な変化が出る疾患はすべて検査対象となります。特に糖尿病網膜症や加齢黄斑変性、黄斑円孔など、網膜の黄斑部と呼ばれる部分に変化がでる疾患の検査には欠かせません。また、緑内障でも神経線維層の厚みを検査するために用いられます。

検査を受けるにあたって

OCT は現在の眼科診療において欠かすことのできない検査機器です。検査に対する不安や疑問点がありましたら、視能訓練士にご相談ください。

医療機器めぐり 第18回

Medical equipment

視能訓練課

「ひかりかんしょうだんそうけい 光干渉断層計 OCT」

はじめに

人は情報の8割を視覚から得ています。視覚はそれだけ私たちが生きていく上で大切なものです。近年の中途失明の原因は糖尿病や緑内障などがあげられ、視力の低下に気付いた際には病状が進行していることも多々見受けられます。そのため疾患の早期発見、早期治療に加えて定期的な受診が重要となります。今回は疾患の発見や治療経過を確認するために役立つ検査機器、光干渉断層計（OCT）についてご紹介します。



光干渉断層計 OCT



OCT 検査の様子

顔を乗せて、赤い十字の中心を見てもらいます。目が動くと画像がうまく撮れないため、しっかりと目標を見ます。